

1. 3R (スリーアール) ってなんだろう？

地球には、水資源・鉱物資源・森林資源・水産資源などの天然資源と、太陽光や地球内部の地熱など地球の外部から吸収したり地球自身が有するエネルギー資源があります。私たちの生活は、この地球の資源を基盤として成り立っていると言えます。

今日、私たちが日々営む活動の過程で、多くの資源を使うことにより「地球温暖化」や「資源の枯渇」などが問題となっています。

このことが私たち自身の生活のみならず、私たちの生活を支える自然環境、ひいては将来の子どもたちにも影響を及ぼすことを忘れてはなりません。

持続可能な社会のために3Rを

資源循環が促進され、環境負荷ができる限り低減された持続可能な社会の構築に向けてライフスタイルを変えていくことが求められています。

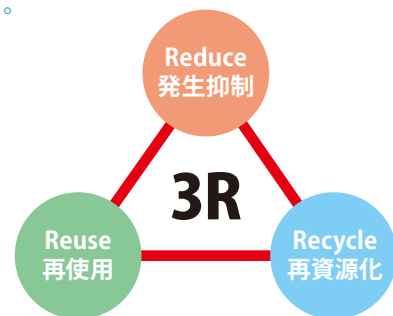
また、そのような社会を実現させるための具体的な取り組みのひとつが「3R (スリーアール)」という言葉で示されています。ここでは「3R」について詳しく説明をしていきます。

「3R」の3つの環境配慮行動の意味をしっかりと理解し、実践することが今後益々重要になっています。また、それぞれの段階を見直すためには、行政・事業者・市民のパートナーシップによる取り組みがなければ実現することはできません。

日本では、行政・事業者・市民のパートナーシップによる「3R」の推進によって「循環型社会 (*1)」を実現することを謳った、循環型社会形成推進基本法が2000年に制定されました。この法律では、「循環型社会 (*1)」の実現には、行政・事業者・市民が主体的に行動し、3者が連携してそれぞれの責務を果たすことが重要であると記されています。

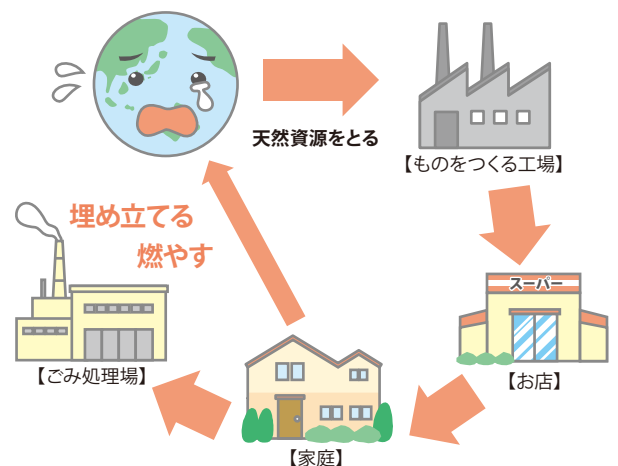
(*1) 循環型社会形成推進基本法において、「製品等が廃棄物等となることが抑制され、並びに製品等が循環資源となった

場合においてはこれについて適正に循環的な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」と定義されています。



リサイクルされていない社会

◎ 矢印の太さはものの量をイメージしています。



- リサイクルされていない社会では、大量の天然資源が消費されています。
- 大量廃棄が天然資源の枯渇の懸念、温室効果ガスの排出による地球温暖化問題など、さまざまな環境問題を引き起こしています。
- このような社会を改めるため、循環型社会形成推進基本法が制定され、「循環型社会」の実現が求められています。